

不燃ごみの有料化について

不燃ごみの有料化について

平成17年度の可燃ごみ有料化の考え方

可燃ごみ有料化の際の基本的な考え方

【必要性】

- ①ごみの減量化・資源化を促進
- ②「受益者負担・原因者負担」の採用
- ③「地球環境の保全」への寄与

【有料化の対象】

可燃ごみ

※リサイクルを促進させるため資源化できるごみは無料とした

【併用施策】

おむつ専用ごみ袋の配布、紙ごみの分別収集の実施、
電気式生ごみ処理機購入補助、不法投棄対策

不燃ごみの有料化について

対象として考えられる品目:

不燃ごみ(埋立ごみ、プラスチック容器包装類、ペットボトル)

現状の課題:

- 公平な受益者負担の実現
3Rにより減量に努める市民との公平性を実現する仕組みが必要。
特に、プラスチック容器包装類とペットボトルは、ライフスタイルの見直しや減量努力が可能。
- リデュース・リユースの推進
リサイクルより優先順位の高いリデュース・リユースの取り組みが十分ではない。
- プラスチックごみの削減
国内外でプラスチックごみ削減に向けた取り組みが進んでいる
- 埋立地への負担

有料化の目指すところ:

- 公平な受益者負担の実現と、3Rの促進
- ライフスタイルの見直し
「プラスチック容器包装類・ペットボトルをできるだけ使用しない」「ものを大切に使う、繰り返し使う」といった環境負荷の少ないライフスタイルの推進
- プラスチック容器包装類・ペットボトルの収集回数拡充
- 最終処分量の抑制

有料化の効果を高める併用施策

埋立ごみ

- 集積所に排出しやすい、また集積所を管理しやすいルール作成(自治会向け手引き、分別大辞典の作成・公表、直接搬入限定品目の見直しなど)
- リユース活動の活性化

プラスチック容器包装類・ペットボトル

- プラスチック容器包装類、ペットボトルの収集回数の拡充
- 店頭回収や過剰包装の抑制など小売店による自主的な取り組み推進

不燃ごみの有料化にあたり検討すべき課題

① 不適正排出対策、取り残し(回収しないごみ)への対応

排出ルールさらなる明確化、自治会向けルールブック

② 不法投棄対策

③ 負担軽減の対応、減量できない廃棄物への対応

在宅医療廃棄物(負担軽減、安全に排出できる仕組み)

④ ごみ排出の利便向上、小売店の取り組み

収集回数の拡充、小売店の自主的な取り組み推進(店頭回収、過剰包装の抑制)

⑤ 市民周知、広報

一般廃棄物(ごみ)処理手数料の見直しについて

【次回審議事項】可燃ごみ処理手数料の見直し

可燃ごみ処理手数料の見直し

現状の課題:

- 可燃ごみに占める「紙類」「厨芥類」の割合が依然高い
- プラスチック製の包装・袋類の分別に向けたインセンティブの仕組み
- 食品ロスの削減など、さらなる可燃ごみの削減
- 可燃ごみ有料化施策の運営で増加する消費税負担
- 埋立地への負担

目指すところ:

- 分別排出の促進
紙類や新たに資源化の対象としたプラスチック製の包装・袋類の分別促進
- 排出抑制の推進
厨芥類や食品ロス削減など、可燃ごみの排出抑制
- 消費税増税への対応
- 最終処分量の抑制

一般廃棄物(ごみ)処理手数料の見直しについて

【次回審議事項】直接搬入手数料の導入

ごみを施設へ搬入する際の手数料の導入

現状の課題:

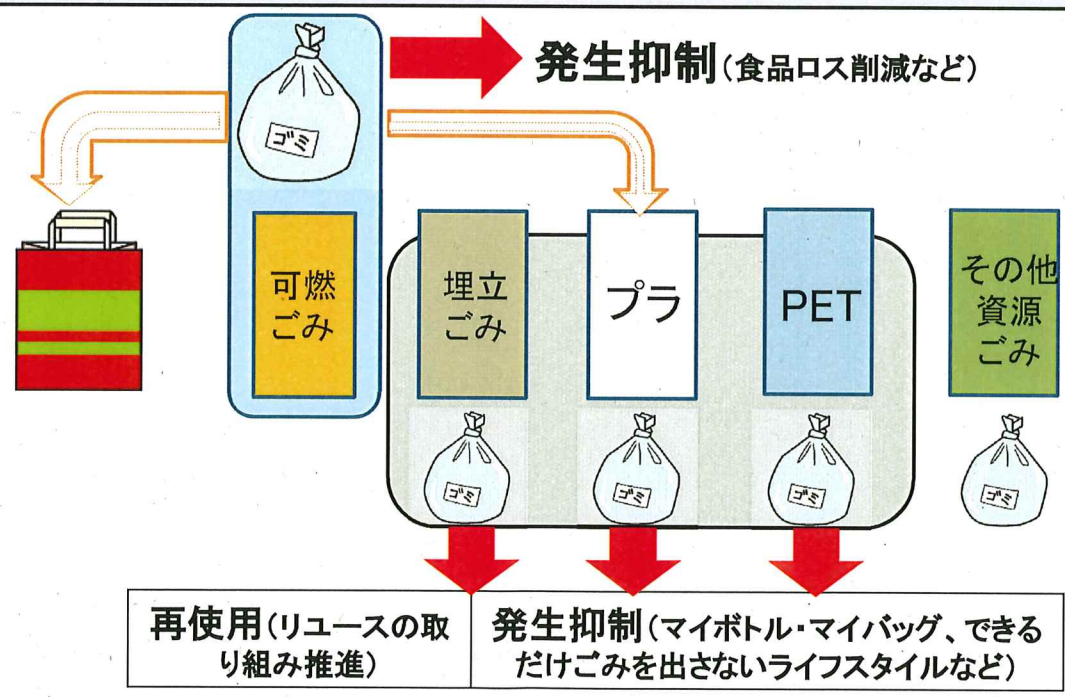
- 市のごみ排出は「収集」を基本としているが、直接搬入の増加により施設での誘導や分別指導、設備等に特別な費用を要する
- 安い処理費用を求め市外在住者や事業者が不適正にごみを搬入
- 年末等の道路渋滞により施設周辺の環境悪化

目指すところ:

- 公平な受益者負担の仕組み
直接搬入に要する特別な費用は直接搬入を利用する排出者が負担する
- 不適正搬入を抑制する手数料に
他市の費用負担や産業廃棄物処理手数料を考慮した不適正な搬入を抑制する手数料の設定
- 施設周辺環境の改善

一般廃棄物(ごみ)処理手数料の見直しについて

ごみフローの見直し



審議日程

3月	諮問 意見交換
5月	意見交換
7月	意見交換
9月	意見交換(中間答申素案)
11月	意見集約、中間答申
11月～	一般廃棄物(ごみ)処理基本計画の中間見直しの審議
平成32年10月	一般廃棄物(ごみ)処理基本計画中間見直しの答申